

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 2 月 21 日 8:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～42,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～45,000 ドル
(S&P500) 5000～6200

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.881

エリオット波動とは

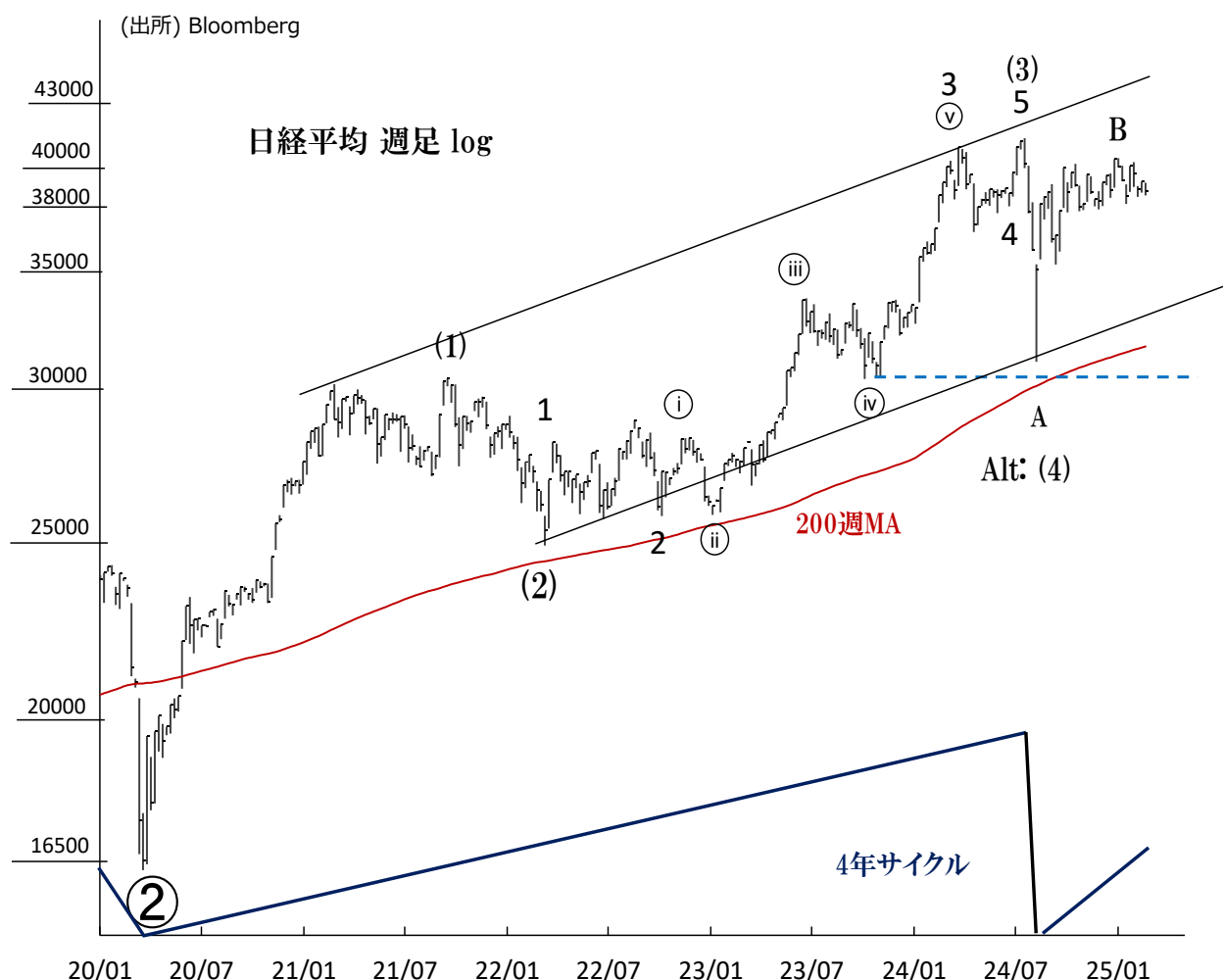
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

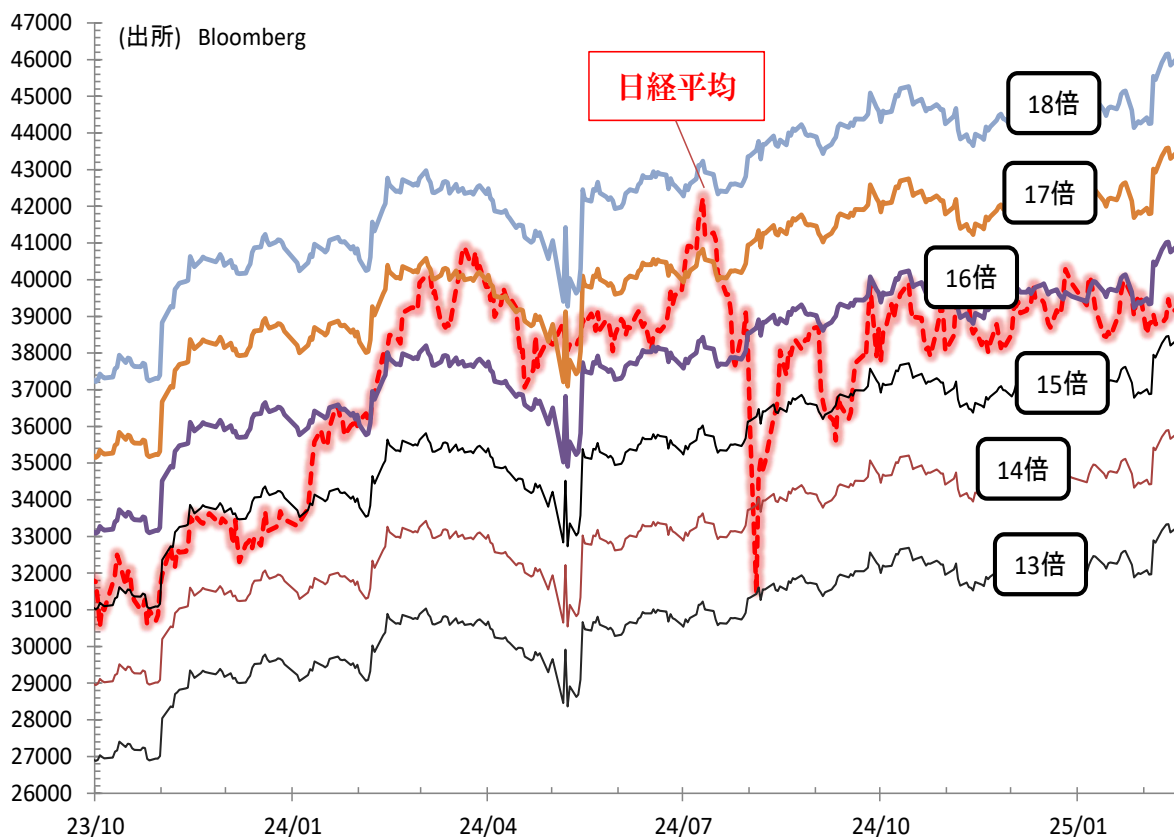
24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いているとみられます。

この見方によると、第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は(4)-C 波によって下押しし、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付けるでしょう。38,401 円を割ると、C 波による下げが鮮明になるでしょう(後述)。

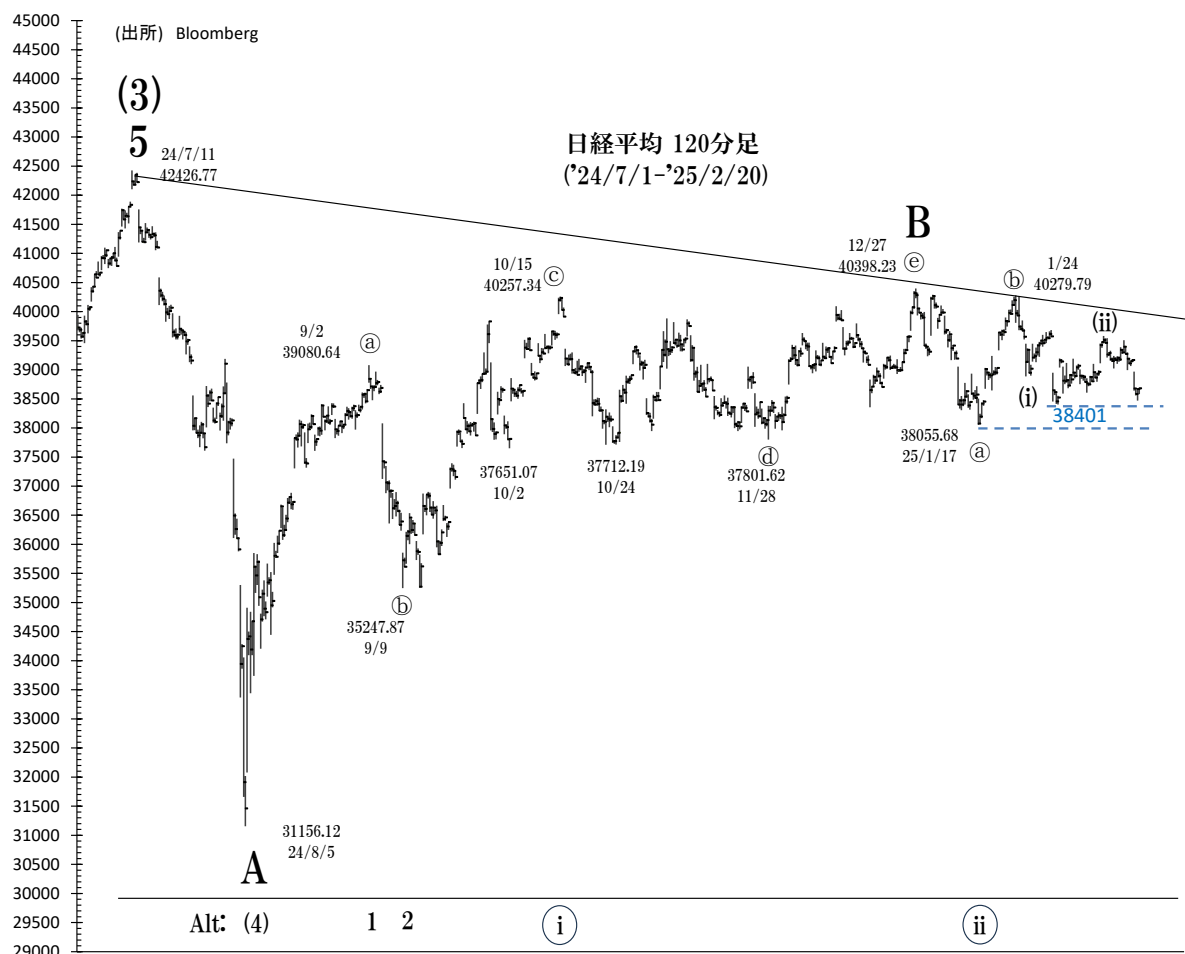
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]



2月20日の日経平均予想 EPS は 2553 円。過去最高は 2564 円(2/13)です。



【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。この C 波によって、日経平均は 24 年 8 月底に次ぐ二番底を付ける、と見込まれます。

38,401 円(2/3 安値)を割ると弱気トリガーが発動されます(2月20日は一時 38,468 まで下げる場面がありました)。そうすると日経平均の下落基調はさらに強まり、次は 38,055 円(1/17 安値)を試す展開となりそうです。

24 年 10 月初旬から今年 1 月まで日経平均の安値は切り上がってきました。この「安値切り上げ」基調は 38,055 円を下回ると途切れ、そうすると日経平均の下振れリスクはさらに高まるでしょう。3 月中にも 24 年 9 月安値の 35,247 円を一時的に下回る可能性があります。

ただし 38,401 を維持しつつ 39,681 円を上回ると、弱気見通しはいったんキャンセルされます。

さらに 40,279 円をも上抜くと、24 年 8 月安値から既に第(5)波による上昇が進行中、というカウントに変更します(チャート下部に、[Alt]で表示しています)。

NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

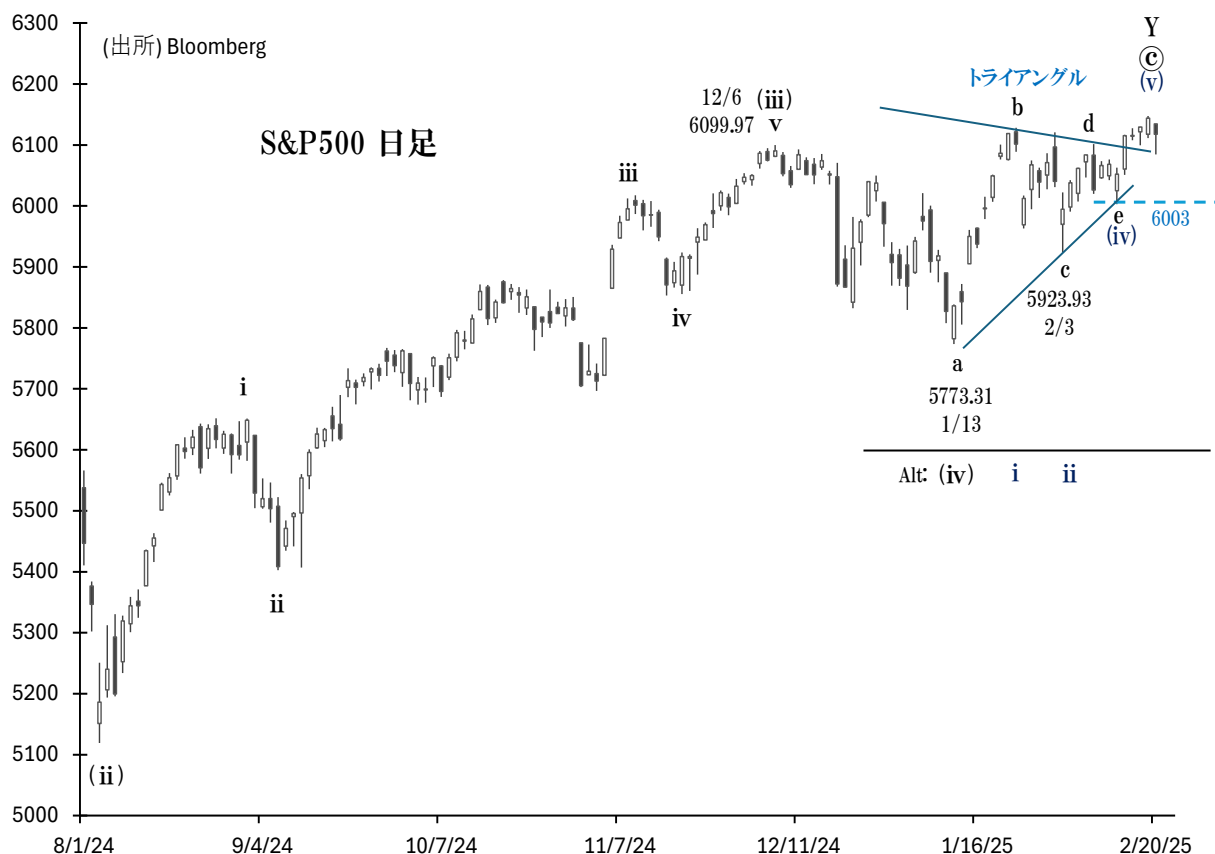
NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24 年 4 月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点における NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%です。

【オルタナティブ・カウント】

41,844ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。この見方によると NY ダウは今後、**[45,244ドル]**、**[45,575ドル]**、さらに**[46,456ドル]**へ上昇する可能性があります。これら上値メドを達成後に調整局面が始まるでしょう。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

2月18日、S&P500は過去最高値を更新しました。この動きにより、直近の**波動カウント**を以下のように改めます。

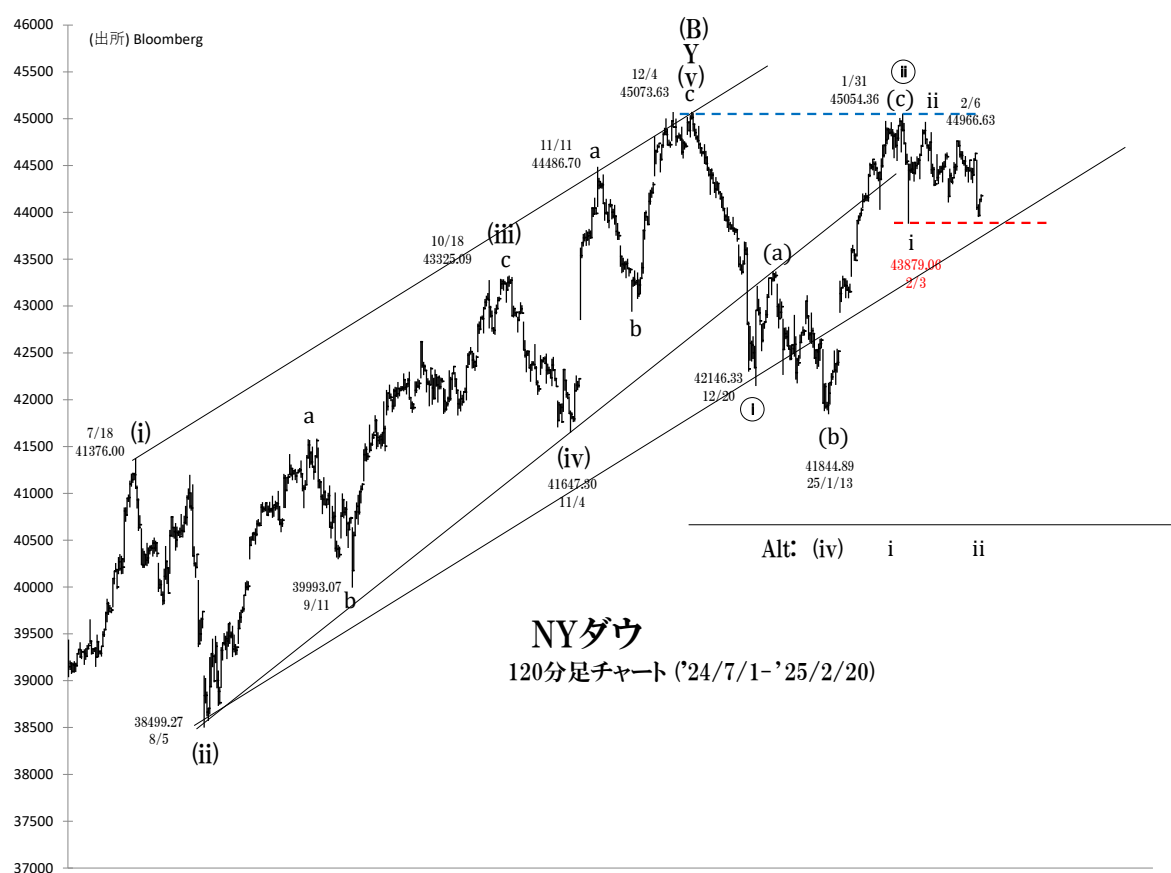
24年12月高値・6099からは「トライアングル」による第(iv)波とみられます。このもみ合いパターンは、6003(2/12 安値)を以て完成し、そこからの上昇は第(v)波に位置付けられます。

2月19日には一時6147と連日で最高値を更新しました。なおこの水準は、想定上値レンジ[6145-6161]内に収まっており、短期的にもS&P500がピークアウトするかに注目です。

[6145]…22年1月～10月の下げ幅に対し倍返し水準のこと

[6161]…1929年天井からの長期レジスタンスライン

今後6003を一時的にも下回ると**弱気トリガー**。第(v)波終了及び、調整局面入りの暗示となります。一方6003を維持する限り、上値試しの地合いは続くでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

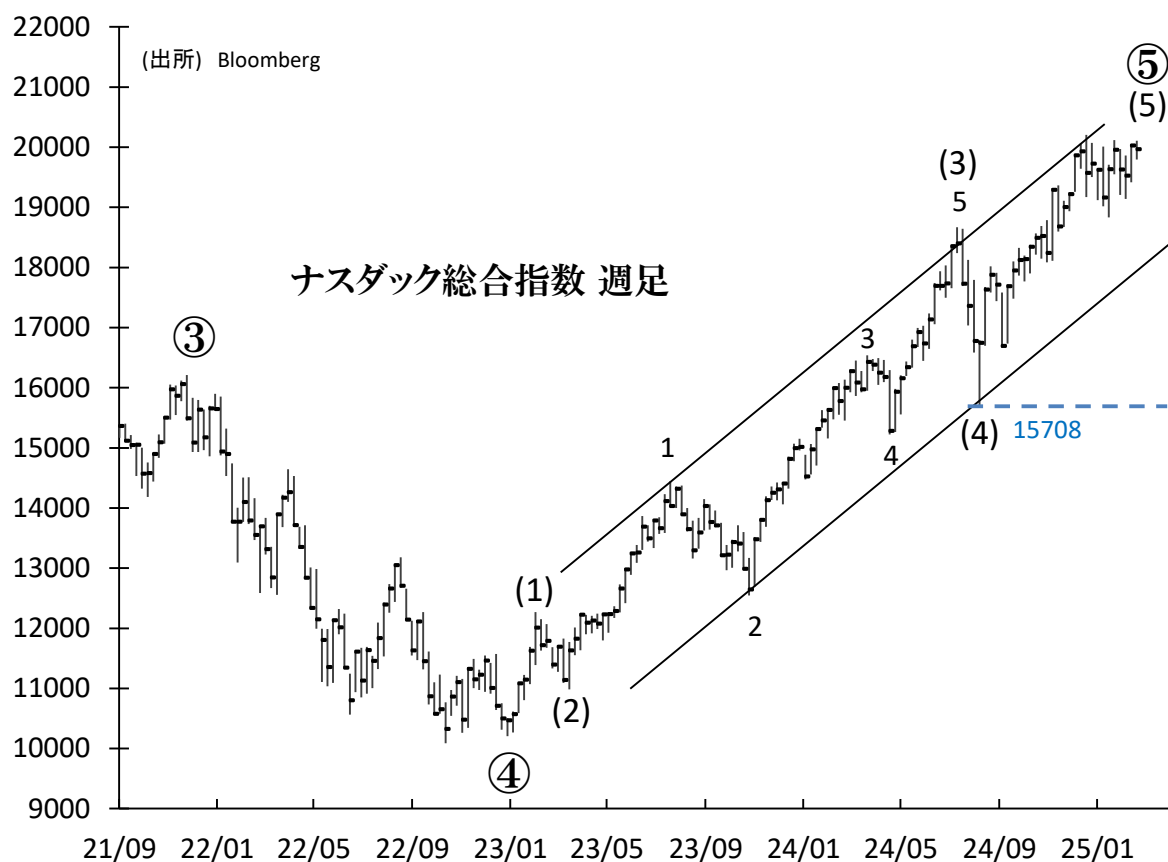
S&P500 は最高値を更新しましたが、ダウ 30 種平均はまだそうなっていません。ダウ 30 の最高値は 24 年 12 月 4 日です。このような「未確認」は他にも、ダウ輸送株平均(最高値 11 月 25 日)、ダウ公共株平均(同 11 月 27 日)、NYSE 総合指数(最高値 24 年 11 月 29 日)、などにみられます。「未確認」は、**米株相場が天井圏にあることを示唆するものです。**

NY ダウに戻ると、45,054ドル(1/31 高値)からマル iii 波による下落が始まった可能性があります。この可能性は、短期的に 43,879ドル(2/3 安値)を終値ベースで下回ることにより高められます。

(オルタナティブ・カウント)

41,844ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。第(v)波-第 i 波を 45,054ドル(1/31 高値)で終え、足元は第 ii 波の調整にあります。この調整を終えると NY ダウは、第 iii 波の上昇により最高値を更新するでしょう。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、プライマリー級の第⑤波とカウントされます。

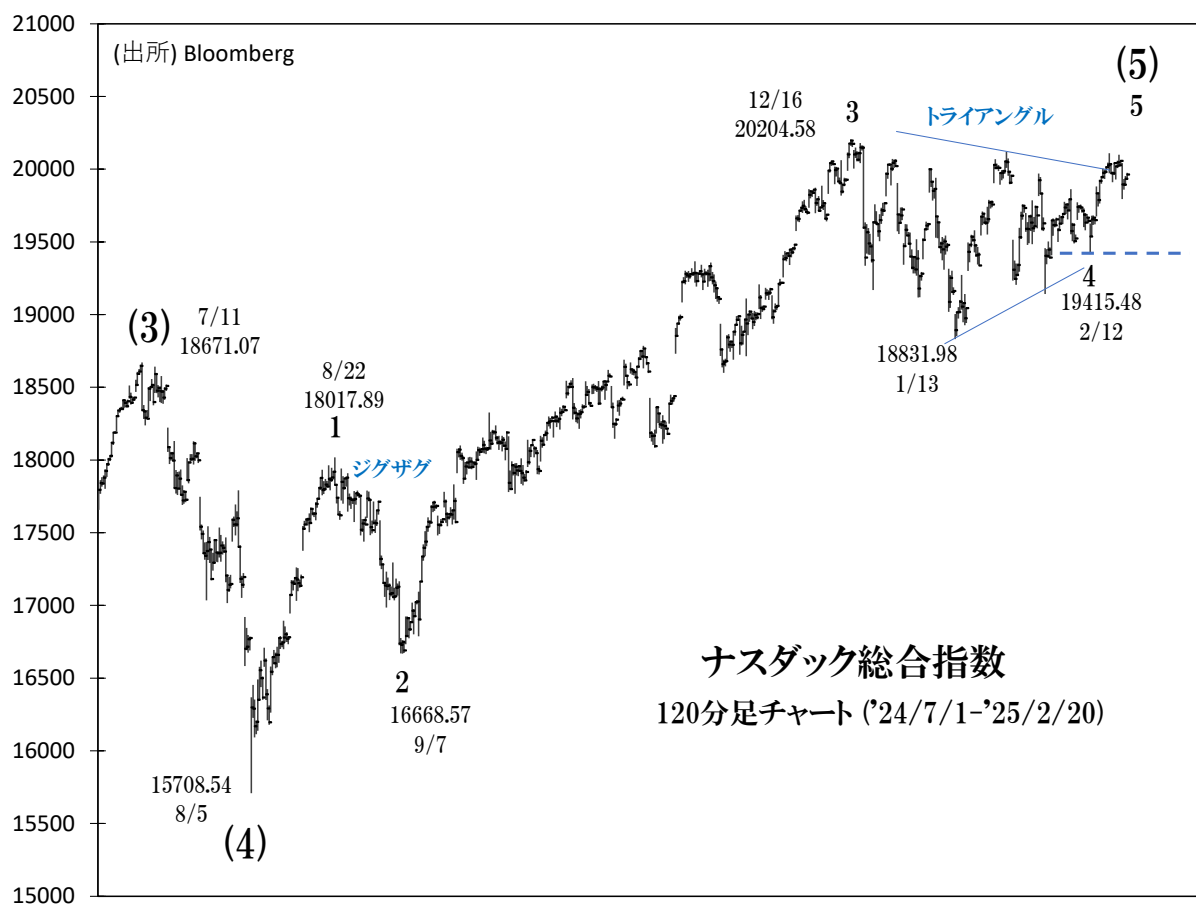
この波動カウントによれば、第⑤波は五波構成((1)~(5))です。24 年 8 月安値 15,708 からの第⑤-(5)波による上昇が完了すると、長期上昇トレンド自体も終了します。

24 年 7 月に頭打ちとなった SOX 指数(フィラデルフィア半導体株指数)は足元、「上昇ウェッジ」(弱気パターン)下辺からの下放れ局面に入っています。それは遠からず 24 年 8 月安値を下回るでしょう。

ナスダックは 19,415(2/12 安値)から第 5 波上昇局面、とみられます(後述)。

この「最後の上昇」を終えるとナスダックは、サイクル級の調整に入っていくでしょう。ひとたびサイクル級の調整に入れば、調整規模は大きく、期間は長くなることが想定されます。





【時間足 エリオット波動分析】

直近、**ナスダック 100 が史上最高値を更新**しました。ナスダック 100 の強地合いが継続すれば、ナスダック総合指数の高値更新も視野に入ります。

ナスダック総合指数において、24 年 12 月高値(20,204)から 19,415(2/12 安値)までの保ち合いを、「トライアングル」(=第(5)波中の第 4 波)と読めます(24 年 8 月～9 月の第 2 波「ジグザグ」と交互になりました)。今は 19,415 を起点とする、第 5 波の上昇が進行中です。

するとナスダック総合指数は、第 5 波により 20,204 を上回り、[20,459]を試す展開となりそうです。

[20,459]…24 年 8 月からの第(5)波(インターミディエイト級)の長さが、第(3)の長さの 0.618 倍になる水準

この先 **19,415 を維持する限り、第 5 波による上値試しの展開は続くでしょう。**

一方 **19,415 を下回ると弱気トリガー、本格的な調整スタートの可能性が高まります。**

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は135.910円(2月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.280円(2月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]仮説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。

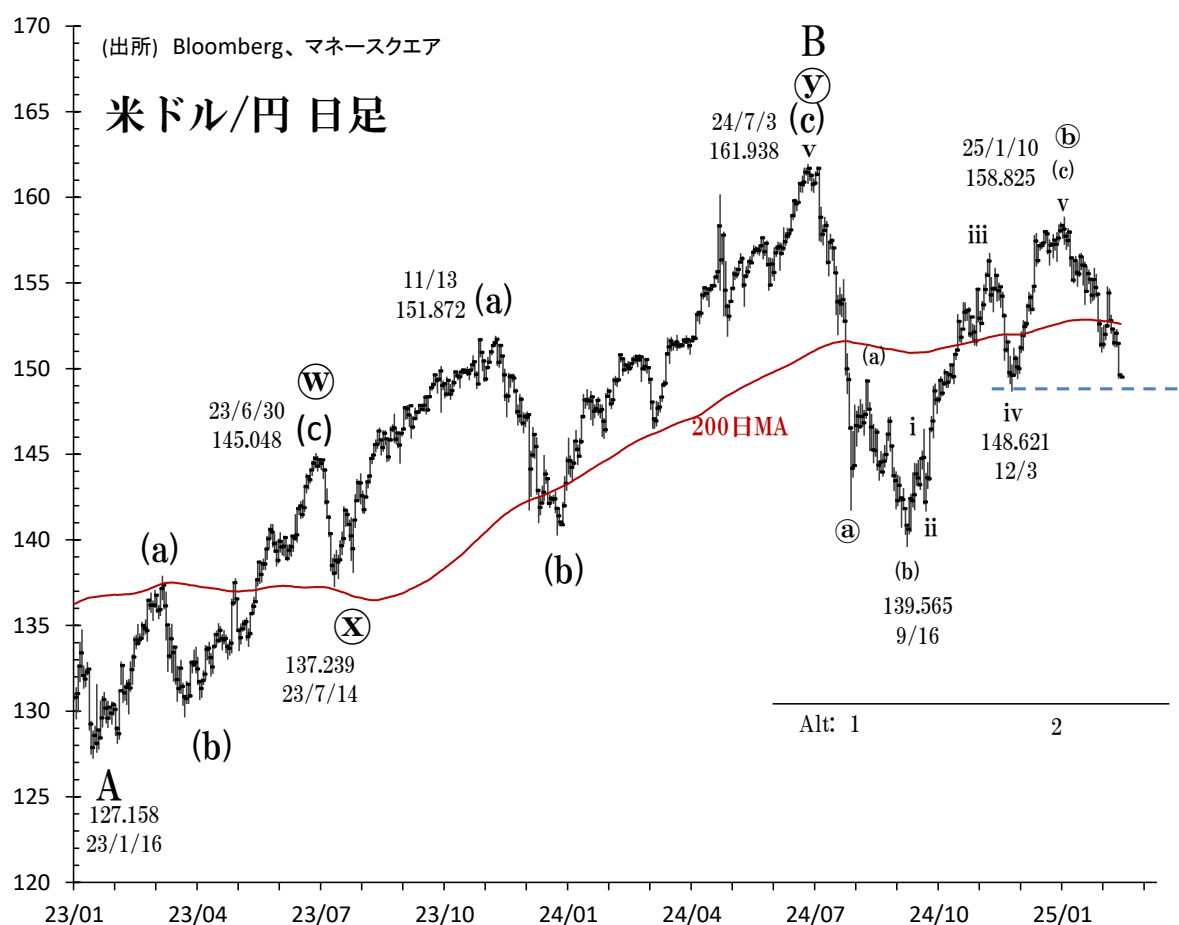
今週足は、一目均衡表(週足ベース)の雲から明確に下放れています。週足が雲を下回るのは 24 年 9 月下旬以来初めてのことで、中期的な円高トレンド入りが見られています。

158.825 円(1/10)からⒸ波によるドル安・円高が進行中、とみられます。

ドル/円は**おそらく今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜くことが予想されます**。その際は以下がⒸ波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

直近、1ドル=149 円台前半までドル安・円高が進んでいます。

目先のにも 148.621 円(12/3)を試す局面となっていますが、それを割ると、次は[146.922 円] (9 月からのドル/円上昇の 61.8%戻り)試しが視野に入ります。

金利差からのドル/円推計値

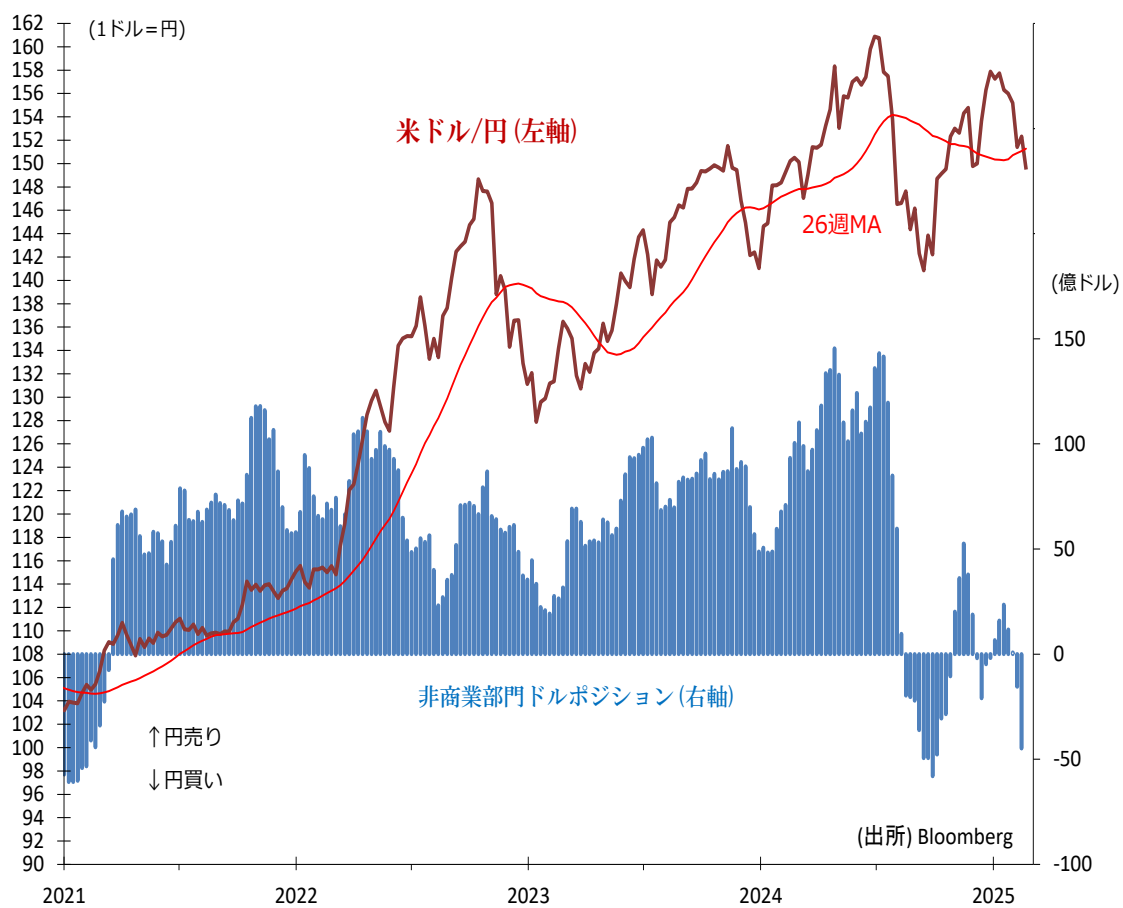
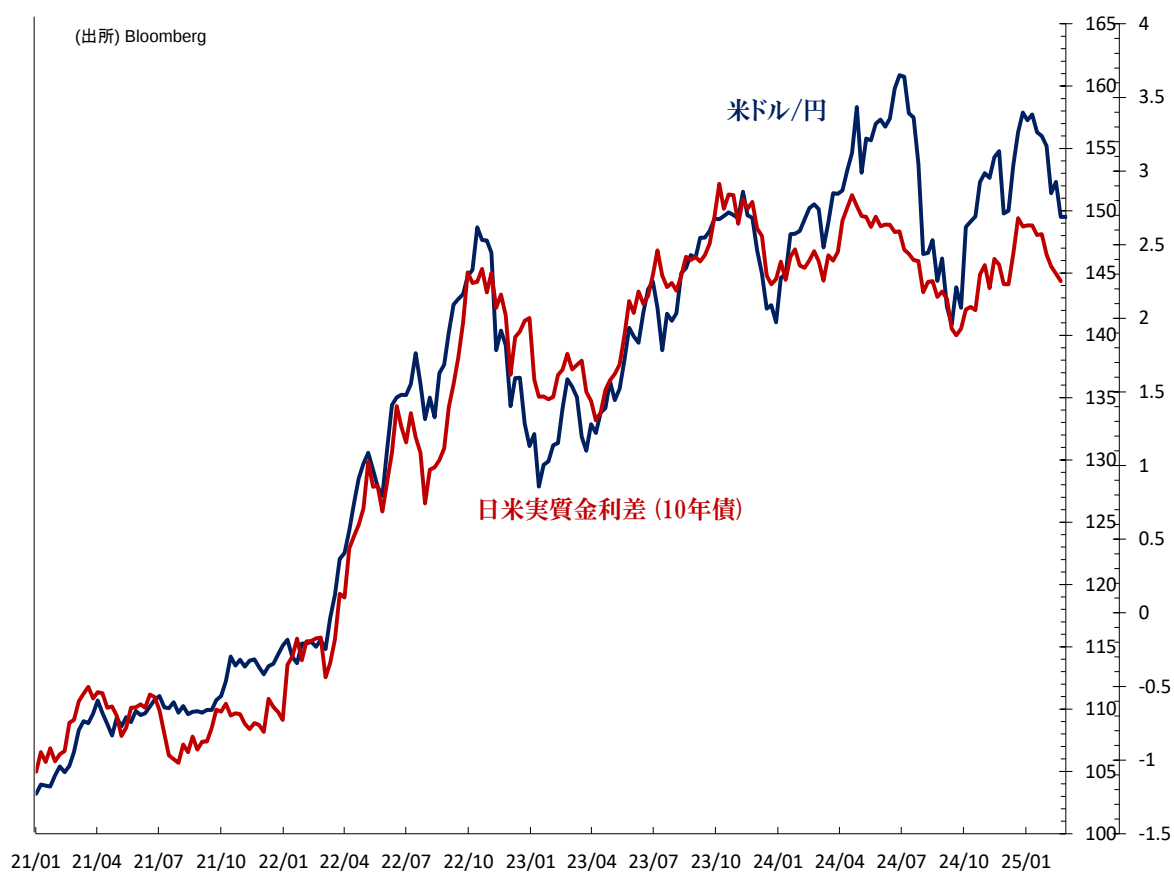
2 月 20 日、日本国債 10 年物(JGB10 年)は一時 1.440%(約 15 年ぶり高水準)へ一段と上昇しました。引き続き 1.515%-1.615%へ上昇する可能性があります。今後も日米金利差の縮小が想定されます。

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.613 円]です。

投機筋の円買い持ち高は 2 週連続増加(2025 年 2 月 11 日時点)

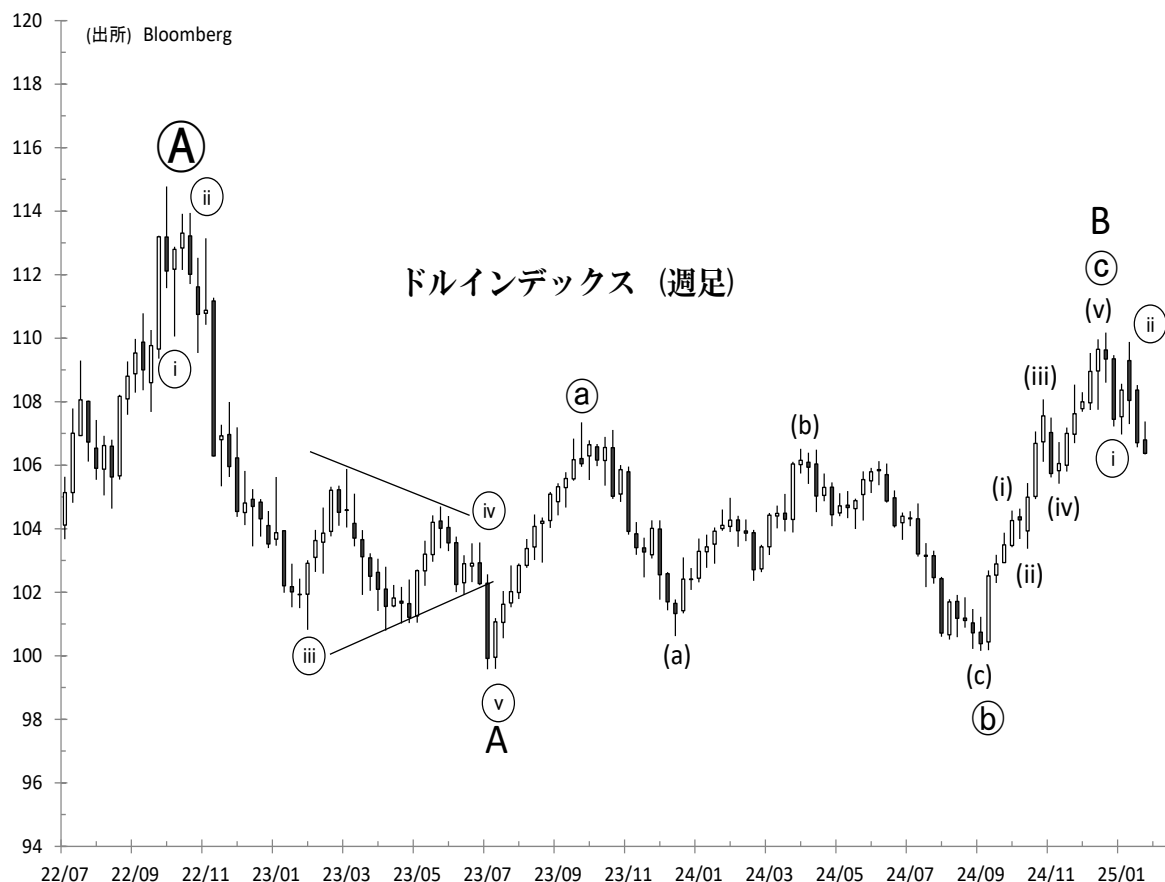
IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 15.5 億ドルから 44.8 億ドルへ増えました。円買い持ち高の増加は 2 週連続です。

ちなみに足元の米ドル/円は、52 週 MA(152.470 円)を明確に下回っています。それをきっかけに、**投機筋は今後も円買いポジションを積み上げるかもしれません。**





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)を以て 24 年 9 月からの B 波-Ⓒ波は終わり、C 波によるドル安トレンドが始まった、とみられます。

109.881(2/3 高値)からマル iii 波によるドル安が進行中です。2 月 20 日には一時 106.338 まで下げ、B 波-Ⓒ波の 38.2%押し[106.349]を達成しました。

ドル指数の下値試しは今後も続き、次は 24 年 12 月 6 日安値の[105.420]を試すとみられます。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になるでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
